

『総合政策危機管理学会』論文執筆要領

2010年6月1日

『総合政策危機管理』編集委員会

- 節の構成は、序論部分と結論部分を除き、節は1. 項は(1)とする。序論と結論の名称(「はじめに」「問題の所在」「序説」「結論」「まとめ」「結びにかえて」等)の選択は、執筆者の判断で行なう。
- 本文に初出する人名は、原則としてフルネームとするが、非漢字使用圏における人名は、姓のみをカタカナ表記した後、カッコ内に姓名のアルファベット表記を付す。同姓の人物が複数登場する場合は、区別可能な形で表記する。ミドルネーム、イニシャルは原則的に省略する。
(例) ケネディ (John Kennedy) 政権、ジョージ・H・W・ブッシュ (George H. W. Bush) 大統領、ジョージ W・ブッシュ (George W. Bush) 大統領、セオドア・ローズベルト (Theodore Roosevelt) 大統領
- 算用数字とアルファベットはすべて半角を用いる (1ケタの数字も半角)。
- 単位については原則的に記号を用いる。
(例) 5%、2 kg、1,300 km、4.9kt
- 英語で日付を表記する際は、「月日年」で統一する。
(例) August 25, 2010、Aug 25, 2010

『出典及び脚注について』

【日本語文献】

1. 初出の引用・参照
 - ① [単行本] 著者名『書名』翻訳者名、出版社、出版年、頁。
 - ② [論文] 著者名「論文名」『掲載誌名』巻号数、発行年月日、頁。
 - ③ [新聞] 『新聞名』発行年月日 (夕刊の場合は明示)。
★新聞の場合、著者名、記事名は特に必要ある場合のみ表記する。
2. 2度目の引用・参照
 - ① 「著者姓、著書あるいは論文の略称、頁。」のように表記する。
 - ② 但し、同一資料を直後に引用・参照する場合、「同上、頁。」のように表記する。
★「前掲書」、「前掲論文」の表記はしない。
★1つの注において複数文献を引用する場合は、全角セミコロン (;) でつなぐ。
★引用・参照頁が複数にわたる場合、頁番号は完全表示とする。(例) 145-149 頁。
★書名、論文名は2度目以降の引用・参照については略称を用いてよい。
(1) 外務省編『外交青書』第1部、平成20年度版、財務省印刷局、2008年、9-11、

39、114-115 頁。

- (2) 防衛省・自衛隊「北澤防衛大臣会見概要」2009年12月4日。
- (3) ポール・ジアラ、長島昭久「新しい日米同盟を維持するための処方箋—ポスト冷戦期に必要な日米同盟の機構改革」リンダマン中島香織訳、マイケル・グリーン、パトリック・クローニン編『日米同盟—米国の戦略』川上高司監訳、勁草書房、1999年、112-113頁；E・H・カー『危機の二十年—1919-1939』井上茂訳、岩波文庫、1996年、55頁。
- (4) ジアラ、長島「新しい日米同盟」105-112頁。
- (5) 石津朋之「解題リデルハート—その虚像と実像」石津朋之編『戦略論大系④リデルハート』芙蓉書房、2002年、252-257頁。
- (6) 同上、262-75頁。
- (7) 中山俊宏「米国におけるインテリジェンス活動の法的基盤—行政特権と国家安全保障令を中心に」『米国の情報体制と市民社会に関する調査』平成14年度外務省委託研究報告書、日本国際問題研究所、2003年、79頁。
- (8) 『RP北朝鮮政策動向』第344号、2003年5月20日、3頁。
- (9) ジョージ・W・ブッシュ (George W. Bush)、筆者によるインタビュー、於米国ワシントンDC、2003年7月4日。
- (10) 西田恒夫他「座談会国際情勢の動向と日本外交」『国際問題』第516号、2003年3月、9-11頁。
- (11) 『日本経済新聞』2003年6月3日；『朝日新聞』2003年6月3日（夕刊）。
- (12) エヤル・ベン＝アリ「日本の自衛隊—普遍化、社会、政治」神谷万丈訳『国際安全保障』第35巻第3号、2007年12月、73-94頁。

【英語文献】

1. 初出の引用・参照

- ① [単行本] Author, Title, Publisher, Year, Page(s).
 - ② [論文] Author, "Title of Article," Title of Journal, Vol. No., Month Year, Page(s).
 - ③ [新聞] Author, "Title of Article," Title of Newspaper, Date of Publication, Page(s).
- ★ 単行本の出版社の所在地やシリーズ名は、それがないと出所が特定しにくくなる場合にのみ表記する。
 - ★ 新聞の場合、著者名、記事名は特に必要がある場合のみ表記する。
 - ★ 1つの注において複数文献を表記する場合は、セミコロン（;）でつなぐ。
 - ★ 引用・参考頁が複数にわたる場合、頁番号は完全表示とする。

(例) pp.145-149.

- ★ 誌名は略称を用いない。

2. 2度目の引用・参照

① 「Last Name, Title, Page(s).」 「Last Name, “Title,” Page(s).」 のように表記する。

② 但し、同一資料を直後に引用する場合、「Ibid., Page(s).」 のように表記する。

★Ibid. はローマ活字体で入力し、イタリックとしない。

★op. cit., は用いない。

★書名、論文名は、2度目以降の引用・参照については略称を用いてよい。但し、頭文字をとった略称を用いる場合、初出注においてそれを明示する。

★著者などが4人以上の場合は、「et al.」を用いてよい。

【インターネット上の資料を用いる場合】

著者名、資料名、発行機関名、文書作成時、(、頁) [URL] (、アクセス日の順)。

★著者名の表記により不要になると判断される場合には、発効機関名は省略する。

★アクセス日は、入稿時に有効でなくなっているものについてのみ表記する。なお、新聞社・通信社の記事については URL およびアクセス日を省略してよい。

(凡例)

(1) 「SARS に関する APEC 行動計画 (概要)」 外務省、2004 年 10 月、
www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/apec/sars-kodo-g.html。

(2) White House, The National Security Strategy of the United States of America,
September 2002, www.gov/nsc/nss.pdf, p.17.

(3) Ibid., p.23.

(4) 合同参謀本部公報室長「北朝鮮西海 NLL 侵犯に対する対北声明」大韓民国国防部
2003 年 6 月 1 日
www.mnd.go.kr/cms.jsp?p-id=00112020000000&CMSTrans=/dicboard/sevice/bbsView.jsp&bbs-id=2&item-id=2438&dumy=20030603173358. 2003 年
6 月 3 日アクセス。

(5) “US Confirm N Korea Nuclear Test,” BBC News, October 9, 2006.

【中国語文献】

以下の通り表記する。それ以外は日本語文献の表記法に準ずる。

① [単行本] 著者名『書名 (日本語訳)』出版社、出版年、頁。

② [論文] 著者名「論文名 (日本語訳)」『掲載誌名』期数、発行年月日、頁。

③ [新聞] 『新聞名』発行年月日。

★ 新聞の場合、著者名、記事名は特に必要がある場合のみ表記する。

(例) 李雲龍「亜太地区的総合安全合作 (アジア太平洋地域の総合安全保障協力)」『現代国際関係』第 5 期、1996 年 5 月 2 日、23-25 頁。

【韓国語文献】

以下の通り表記する。それ以外は日本語文献の表記法に準ずる。

- ① [単行本] 著者名『日本語訳された書名』出版社、出版年、頁。
- ② [論文] 著者名「日本語訳された論文名」『掲載誌名』期数、発行年月日、頁。
- ③ [新聞]『新聞名』発行年月日。

★新聞の場合、著者名、記事名は特に必要がある場合のみ表記する。

(例) キム・ヒサン (金熙相)『21世紀の韓国安保』典廣、2000年。

【ロシア語文献】

ロシア語文献は、アメリカ議会図書館 (LC) 方式に従ってラテン文字化し、以下の通り表記すること。それ以外は英語文献の表記法に準ずる。

- ① [単行本] Author, Title (日本語訳), Publisher, Year, Page(s).
- ② [論文] Author, “Title of Article (日本語訳),” Title of Journal, Vol., No., Month Year, Page(s).
- ③ [新聞] Author, “Title of Article (日本語訳),” Title of Newspaper, Date of Publication, Page(s).

(例)

(1) Mikhail Gorbachev, *Perestroika i novoe myshlenie dilia strany i dlia vsego m ra* (我が国にとって、そして世界にとってのペレストロイカと新思考), *Izdatel' stvo politicheskoi literatury*, 1987, p.125.

(2) Zoia Zotova, “Optimizatsiia vzaimootnoshenii mezhdu sentrom i” regionami (中央・地方相互関係の最適化), *Polis*, No.3, 1998, pp. 204-207.

(3) *Rossiiskaia gazeta*, August 9 2000, pp.1-2.

★1つの注において日本語と外国語両方の文献を引用・参照する場合は、句点、セミコロ、ピリオドなどで区切る。

(例) 石津「解題リデルハート」252-257頁；中山「米国におけるインテリジェンス活動」79頁。Posen and Ross, “Competing Visions,” p.3; and Thomas, *Military Challenges*, pp. 6-9. 李「亜太地区的総合安全合作」23-25頁；キム『21世紀の韓国安保』。Gorbachev, *Perestroika*, p. 125.

★これ以外の言語を用いる場合は、編集委員会に事前に相談すること。

【その他の事項】

- 詳細につき不明な点は、*The Chicago Manual of Style*, 15th ed. University of Chicago Press, 2003を参照のこと。
- 編集上の技術的な問題（注 様式の統一など）に関しては、編集委員会の判断で修正を行なうことがある。